

2014年を迎えて

技術を生かし、社会の期待にイノベーションで応える

平素より『日立評論』をご愛読いただき、心より御礼申し上げます。「2014年度 日立技術の展望」をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

経済のグローバル化が加速度的に進展し、人やモノが地域や国の枠を越えて行き交うことが当たり前になりつつある今、社会の持続的な発展に向けた新たなニーズが次々に生まれています。こうしたニーズに対応し、世界では、新しい技術に支えられたさまざまな変革が進んでいます。

代表例の1つはIT（情報技術）を活用したビッグデータの利活用です。人々の暮らしの中から生み出される生活情報や、私たちの生活を支える社会インフラシステムが記録し続ける稼働情報、天候などの自然情報など、日々更新される多くの情報、すなわちビッグデータが最先端のITによってつながることで、持続的な社会の発展に寄与する新たな価値を創出し始めています。

そうした時代にあって、日立は、昨年発表した「2015 中期経営計画」の下で、グローバルなR&D（研究開発）ネットワークから生み出される最先端の技術を生かし、世界各地でよりよい未来を実現していく社会イノベーション事業を展開しています。例えば、モニタリング技術とシミュレーション技術を駆使したバリューチェーンのグローバルな最適化や、波や風の変化に高度な制御技術で対応する浮体式の洋上変電所など、これまで積み重ねてきた多様な技術を高度に融合することで、新たなシステム・サービスの実現に取り組んでいます。また日々の膨大なトラフィックデータを活用した高効率の鉄道ネットワークを構築するプロジェクトもスタートしました。さらに水資源の確保に苦勞する国・地域においては、海洋深層水を活用して水インフラの整備や新しい産業の振興につなげる試みにも参画しています。人々の暮らしに身近なところでは、画期的な粒子線治療装置の開発の一端を担うことで、がんとの闘いに新たな可能性をひらきました。

日立はその技術力で世界各地の課題にイノベーションで応えていきます。世界のお客様の声に耳を傾け、対話の中で未来に向けた課題を共有し、これまでに積み重ねてきた知見や技術を含むあらゆる情報を先進のITを活用して組

み合わせていくことで新たな価値を生み出す取り組み。それこそが日立の展開する社会イノベーション事業なのです。

本号では、開発の最前線にいるメンバーが、社会イノベーション事業の鍵を握る最新の技術動向をご紹介します。私は、彼らが生み出す優れた技術を生かし、そして本書を手にとられた皆様と各地の課題について正面から議論し、解決に向けて取り組むことで世界各地に社会イノベーションの輪を広げていきます。

2014年には、冬季オリンピックやワールドカップといった世界規模のイベントが予定されています。また、TPP（環太平洋経済連携協定）に代表される新たな世界経済の枠組みの誕生も見込まれています。私たちは、こうした新たな時代の到来を感じるさまざまな場面で、よりよい未来に向けた思いを共有することでしょう。日立もまた「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」ことをみずからの理念とする企業として、技術力を生かしたソリューションの提供を通じて、よりよい未来の実現に貢献していきます。SOCIAL INNOVATION - IT'S OUR FUTURE、日立は社会イノベーションで世界の期待に応えます。



日立製作所 執行役社長

中西 宏明